

# 2024 年度（令和 6 年度） 事業活動報告書

法人の名称 特定非営利活動法人グリーンママ

## 1 事業の成果

### (1) 育児支援に関する事業

「みどりっこ親子の居場所はなまる」（以下はなまる）「緑区地域子育て支援拠点いっぽ」（以下いっぽ）の運営、『みどりっこカレンダー』『みどりっこひろば』を通じた子育てに関する情報の提供など行い一定の成果を上げた。

はなまるは、開設 20 周年を迎え、記念イベントを行った。現在ひろばを利用する人を対象にしたイベントを、いままでかかわりのあった方の協力を得ながら実施し、いままでの感謝を伝える機会も設けた。

いっぽでは、6 月にサテライトを長津田に開所した。事前の準備から地域の協力を得ながらすすめることができ、地域の居場所として利用されている。また、緑区全域の子育て支援がよりよいものになるよう、地区別のネットワークを広げながら、地区ごとの状況に合わせた取組みをすすめた。

### (2) 障がいのある子どもと親への支援事業

子どもの発達に不安のある親が交流できる場として、「気になる子のサロン」、「なないろ★ほっとタイム」を継続して開催した。当事者である先輩ママにも参加してもらい、生きた情報交換ができる場になっている。場の開催をとおして、緑区近隣の障害児者に関わる事業所との連携もすすめることができた。

### (3) 児童及び青少年の健全育成にかかる事業

いっぽにて学生のボランティアや実習受入れ行い、これから親になる学生が乳幼児とふれあえる機会を提供した。

## 2 事業内容

### (1) 育児支援に関する事業

#### ①「みどりっこ親子の居場所はなまる」の運営

実施日時	月～金曜日 午前 9 時 30 分～午後 4 時 45 分 土曜日（月 1 回）午前 9 時 30 分～午後 2 時 45 分
実施場所	みどりっこ親子の居場所はなまる
従事者	3 人/1 日
対象	緑区及び近隣在住の未就学児とその保護者（おもに 0～3 歳児）
支出額	11,545,167 円
事業実績	<ひろば> 年間利用者数（大人・子ども）：4,232 人（5,110 人） 一日当たりの平均利用者数：17.3 人（20.6 人） 新規登録者数（子どもの数）：209 人（233 人）* 令和 2 年度より子ども単位の人数で集計 <一時預かり> のべ預かり児童数：260 人（453 人） 総利用時間数：773 時間（1414 時間）

#### 【1 年間の報告】

・ひろば開設 20 年を迎え、外部会場（ハーモニーみどり）やひろばで、利用者に向けたイベントを行った。外部会場では、参加者親子向けにいつものひろばでは体験できないことを企画した。実施にあたっては、緑区社協や中山地域ケアプラザにご協力いただいた。ひろばではイベント期間を設け、毎日“お楽しみ”を行い、利用者と共に 20 年のお祝いをした。外部会場やひろばの飾り付け等では、地域で活動されているボランティアさんにご協力をいただいた。日頃からお世話になっている地域の方々や施設にも、感謝の気持ちを伝える機会となり、今後の活動にもつなげていきたい。

・利用者の要望により 2024 年度から、1 歳半以上を対象にした「こっこタイム」を月に 1 回開催している。通常とは違うおもちゃが使える季節を体験できる中で、1～2 歳児が他の子どもと関わりながらのびのびと遊べる機会となっている。また、保護者同士も幼稚園について等の話題の共通点も多く、情報交換ができる場にもなっている。

- ・いっぽが行っている中山地域での出張公園遊びに、はなまるスタッフも参加した。参加者親子だけでなく地域の支援者とも交流がもてた。
- ・妊娠期の方に向けたプログラム「マタニティタイム」を行い、そこに参加された方は出産後のひろば利用につながっている。産休に入ってからの出産間際に参加される方が増えているので、実施のタイミングが難しいと感じている。妊娠期の支援についてはいっぽや区内のひろばと情報交換しながら、連携して取り組んでいきたい。
- ・ひろばで昼食がとれる時間を再開したことにより、長時間の滞在をされる利用者が増えた。
- ・一時預かりは年間を通して利用が減少した。稼働率で見ると前年度下期は40%前後だったものが、今年度は20%前後となった。利用件数減少の理由としては乳幼児一時預かり施設が駅近くに1箇所増えたことや、横浜市の乳幼児一時預かりや横浜市子育てサポートシステムの利用への補助がはじまったことが考えられる。年齢別では0歳児13%、1歳児48%、2歳児35%で1歳児の利用が半数近くしめている。預かりの理由としては、リフレッシュに続き家事、通院の順となり、今年度は勉強も少し増えている。一時預かりを利用することで自分の時間を作り、子育て中の気分転換や就労に向けてのスキルアップを求めている親が多いことが伺える。運営面では、預かりキャンセルの連絡をメールで受けられるようにした。これにより保護者が時間を気にせず連絡ができるようになった。また、スタッフの電話対応の時間削減や、内容が残ることなどで複数人で確認をするなど、正確で安定した対応につながった。

## ②「緑区地域子育て支援拠点いっぽ」の運営

ア. 「親子の居場所事業」「子育て相談事業」「情報収集・提供事業」「ネットワーク事業」「人材育成・活動支援事業」「利用者支援事業」

実施日時	火～土曜日 午前9時～午後5時
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ・いっぽサテライト
従事者	12人/1日
対象	緑区及び近隣在住の未就学児とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	59,088,316円
事業実績	年間利用者数(大人・子ども): 29,764人(22,863人) 一日当たりの平均利用者数: 123.5人(93.3人) ( )内数値は前年度実績 十日市場: 18750人 平均77.8人/日 長津田: 11014人 平均45.7人/日 令和6年度新規登録者数(子ども): 2287人(令和5年度: 子ども742人) (令和5年度累計登録者: 子ども4,194人) 新規ボランティア登録人: 十日市場22人(26人)・長津田35人 年間ボランティアのべ活動者数 683人(608人) 利用者支援事業相談件数 291件(418件)

### 【1年間の報告】

1. 長津田にいっぽサテライトを開設した  
6月に長津田にいっぽサテライトを開所し利用がはじまった。長津田近隣に住む方の利用が多く、戸建てでアットホームな雰囲気があり親子の日常的な居場所となっている。常時2階を開放しており、のんびり落ち着いて過ごせるように工夫している。  
開所前から自治会など、地域とのつながりを作り、施設の周知やボランティア募集でご協力いただけた。多くのボランティア登録もあり、地区社協や地域ケアプラザなど地域とのつながりのなかで取組みをすすめている。ボランティアの登録も多くあり、子育て世代の居場所となるだけでなく、地域の居場所としても機能しつつある。
2. 地区別のネットワーク作りに力を入れた  
「みどり子育て支援連絡会」の地区別連絡会を区内7箇所で行った。各地区の地域ケアプラザが事務局としてこの連絡会に関わってもらうことができ、それぞれの地区にあわせた取り組みができるようになった。今年度は主に現状把握と課題の抽出を行ったので、次年度以降の取組みにつなげていく。
3. 多様な養育者が利用しやすくなるよう取組みを工夫した  
外国につながる利用者が増えていることもあり、英語ややさしい日本語での案内・チラシの作成など工夫している。多文化理解のプログラムも実施し、より利用しやすい雰囲気作りを行った。  
ひとり親対象のサロン「シングルママのしゃべりば」や「気になる子のサロン」など、当事者同士話ができる場を定期的にもうけるとともに、日常的なひろばの利用もうながしている。

また、多様な子育て世帯の利用にあわせた情報収集や提供ができるよう、他の団体との交流や研修の機会等を活用している。

イ.「横浜子育てサポートシステム」緑区支部運営

実施日時	火～土曜日 午前9時～午後5時
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	3人/1日
対象	横浜市在住の0歳から小学生とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	11,365,398円
事業実績 ( )内数値は前 年度実績	<p>会員数：利用会員 978人 (958人) 提供両方会員 272人 (271人)          令和6年度入会者数：利用会員 305人 (312人) 提供両方会員 20人 (47人)          コーディネート件数：355件 (256件)          実働会員数：利用会員のべ1,030人 (1094人)          提供・両方会員のべ698人 (818人)          活動件数：6,605件 (5,866件)          入会説明会：44回実施 343人参加 (42回 264人)          〈うち利用会員 301人・提供・両方会員 42人〉          個別説明：88人参加〈利用会員 76人 提供・両方会員 12人〉(129人)          フォローアップ研修：5/28 7人参加 6/22 11人参加          交流会：10/16 2人参加 10/18 3人参加 11/29 1名参加 12/5 3名          参加 2/6 8名参加 2/19 8名参加 3/5 7名参加          子育てサポート通信：3回発行          「いっぽ保育隊」：活動件数 76件 のべ活動者 105人 保育子ども 347人          (活動件数 73件 のべ活動者 104人 保育子ども 415人)</p>

【1年間の報告】

1. サポートの業務・利用状況について

- ・「地域子育て支援拠点サイト」の導入で会員への利用方法の説明、周知などに多くの時間がかかり業務時間が増えた。
- ・子サポ de あずかりおためし券をきっかけに、いっぽやサテライトでのひろば預かりの様子を見てひろば預かりの利用が増えてコーディネート依頼も増えている。利用しやすさはあるが、利用者が地域でつながる会員間の関係づくりとまではいかないことが多く、この事業本来の趣旨を伝えることの難しさを日々実感している。

2. 提供会員募集について

- ・提供会員募集を強調したチラシを作成し、小学校・中学校への事業周知依頼を夏休み前に行った。配信機能「すぐーる」を利用して学校ごとの周知となったため、効果が今一つだった。
- ・提供会員予定者研修会（実地研修）を10月と1月と2回の開催後11名の会員登録があった。
- ・研修開催後には提供会員の交流会を行い、新しく登録した会員の活動に関する思いや希望などを丁寧に聞き取り活動につなげた。
- ・サテライトのひろばボランティアで、ひろばで預かりの様子をみて提供会員に興味を持ち、研修をうけて会員登録して下さる方が多かった。

③子育てに関する情報の発信・提供

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	4人
対象	緑区および近隣の未就学児とその保護者
支出額	1,484,181円

事業実績	『みどりっ子カレンダー』:毎月 1000 部発行、掲載園 33 園、配布先 53 か所 『みどりっこひろば』:随時情報更新 『みどりっこひろば』メールマガジン:毎月発行 674 人登録(前年度 620 人) 『みどり子育て応援ガイドブック』改訂版編集 支援者向けメールマガジン『いっぽメールニュース』:月 1～2回発行 82 人登録
------	--

#### 【1年間の報告】

- ・横浜市の保育園への地域開放事業の補助金廃止にともない、毎月発行していた『みどりっ子カレンダー』が令和7年3月で終了となった。平成17年(2005年)より編集業務を受託していたが、継続する中でできた保育園との関係は、今後の他の事業でも活かしていく。一部の情報はwebサイト『みどりっこひろば』で提供していく。
- ・『みどりっこひろば』では、認知度が進む中、より多くの情報の掲載依頼が届くようになっている。掲載する情報をていねいに確認しながら、必要に応じていっぽのインスタグラム等での情報提供を行うなど、子育て世代に情報が届く工夫をしている。

#### ④集団出張保育

実施日時	通年
実施場所	活動なし
従事者	登録スタッフ 30人
対象	緑区および近隣区の子育て中の保護者とその子ども
支出額	0円
事業実績	定期託児:なし 出張保育:なし (前年度 どちらも実績なし)

#### 【1年間の報告】

- ・年間を通して託児の実施はなかったが、次年度の実施に向けた託児の相談をみどりスポーツセンターより受けた。再開に向けて登録スタッフの再確認など行った。

#### ⑤地域に向けた子育て支援の促進事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽほか
従事者	3人
対象	緑区および近隣区の子育て中の保護者とその子ども
支出額	353,161円

#### 【1年間の報告】

- ・緑区子ども家庭支援課より受託している「赤ちゃん教室」中山会場、長津田会場の運営・進行を行った。中山会場でははなまるの利用につながる声掛けを行い、長津田会場では新しくできたいっぽサテライトの紹介と利用の声掛けを行った。
- ・参加している地域の連絡会等に積極的に参加し、顔の見える関係づくりをすすめた。また、子育て家庭について伝える機会ととらえ、日ごろの活動から見えている現状を伝えた。

<参加している緑区内の委員会・団体等>

- 「緑区地域施設間連携会議 (ミドリネット)」
- 「緑区要保護児童対策地域協議会」 いっぽ、はなまるともに参加
- 「緑区セイフティネット会議」
- 「十日市場施設間連携会議」
- 「緑区読書活動推進連絡会」
- 「緑区防災ネットワーク運営委員会」
- 「緑区地域福祉保健計画推進策定委員会」
- 「緑区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会」(委員 太田さおり)
- 「緑区市民活動支援センター運営委員会」(運営委員 鈴木純子)
- 「横浜市北部地域療育センター運営協議会」
- 「緑区国際交流ラウンジ」(運営法人理事 松浦千恵)
- 「緑区地域自立支援協議会子ども支援部会」

「みどり障がい児者ネットワーク」  
「緑区社会福祉協議会NPO等分科会」  
「子育てひろば全国連絡協議会」正会員  
「十日市場自治会」特別会員  
「新治西部地区社会福祉協議会」会員  
「横浜市広報企画審議会」（委員 松浦千恵）

## (2) 障がいのある子どもと親への支援事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ・中山地域ケアプラザ
従事者	4人
対象	緑区および近隣の未就学児及び小学生とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	31,550円
事業実績	気になる子のサロン 年間10回実施 87人(大人53人・子ども34人)参加 先輩ママ14人、事業所等支援者56人参加 なないろ★ほっとタイム 年間4回実施 26人(大人11人・子ども15人) 先輩ママ9人、事業所等支援者28人参加

### 【1年間の報告】

- ・発達に不安等のある子どもの親が集える場「気になる子のサロン」「なないろ★ほっとタイム」をいっぽ、中山地域ケアプラザと会場に開催した。1年を通して、中山地区、十日市場地区、長津田地区と毎月どこかの地区で1回開催する日程とした。その中で、横浜市北部療育センターの職員や、区のケースワーカー、地域の児童発達支援事業所、市社協の職員等の方々につながる機会をもつことができた。
- ・令和5年度より新たにダウン症児の親のためのサロンを継続して行った。障がい理解講座でもダウン症をテーマに企画をすすめ、令和7年度の実施につなげた。

## (3) 児童及び青少年の健全育成にかかる事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽほか
従事者	3人
対象	地域の中学生・高校生、福祉・子育て関連職に就く者
支出額	0円（主にいっぽの事業の中で行った）
事業実績	学生ボランティア のべ73人（59人）大学等実習生受入れ 57人（79人）

### 【1年間の報告】

- ・十日市場中学校へのボランティア募集を夏休み期間に行い、ひろばでの見守りやイベントの手伝いをしてもらった。乳幼児とのふれあいだけでなく、大学生や他の学生との交流の場にもなり、普段できない経験ができる場を提供することができた。
- ・十日市場小学校6年生の授業の一環として、小学生がいっぽを訪問する機会が持てた。子育て支援の必要性や施設の役割について知ってもらった。
- ・看護学校（横浜創英大学・横浜実践看護専門学校、イムス横浜国際看護専門学校）の母性看護学実習・地域包括ケア実習や、NPOインターンシップの受入れを行った。実際に親子とふれあいながら子育て家庭の現状を知り、それぞれの学びにつなげることができた。

2024年度（令和6年度） 事業費合計 83,867,773円